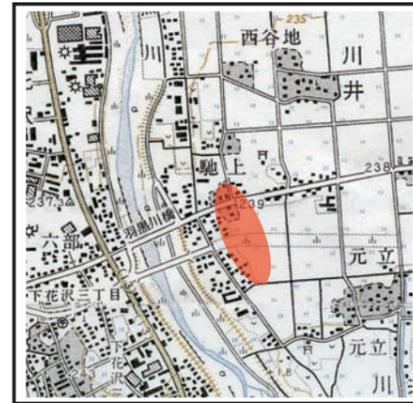


# 馳上遺跡第2次発掘調査説明資料

調査要綱	
遺跡名	馳上遺跡（はせがみいせき）
遺跡番号	353・354（米沢市遺跡番号）
所在地	米沢市大字川井字元立
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査原因	東北中央自動車道（米沢～米沢北間）建設事業
調査面積	11,000 m <sup>2</sup>
現地調査	平成21年5月12日～平成21年11月6日
遺跡時代	古墳時代 奈良・平安時代
遺跡種別	集落跡
遺構	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・河川跡・溝跡 土坑・柱穴・炉跡
遺物	土師器・須恵器・黒色土器
調査担当者	調査課長 阿部明彦
	課長補佐 伊藤邦弘
	専門調査研究員 須賀井新人（調査主任）
	調査研究員 三浦勝美
	調査員 濱田純
調査協力	調査員 吉田満
	東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所
	米沢市教育委員会 置賜教育事務所

2009年10月31日（土）  
（財）山形県埋蔵文化財センター



遺跡位置図（1：25,000）

## 調査の概要

馳上遺跡は米沢市役所の東方約1kmに位置し、古墳時代と奈良・平安時代の集落跡と推測される遺跡です。西側を流れる羽黒川によって形成された後背湿地上に立地し、現在の地目は水田となっています。

馳上遺跡では、平成12年度に県道改良工事に係る大規模な発掘調査（第1次調査）が行われ、50棟を超える住居跡や建物跡と、160箱に及ぶ遺物が見つかりました。第2次となる今回の調査は高速道路建設に伴うもので、遺跡範囲の西域に当たり、第1次調査の県道を挟んだ南北両側の11,000m<sup>2</sup>を対象としています。調査区は既設・仮設の排水路により大小10区画に分割され、残土置き場確保のために、調査終了した範囲は順次埋め戻す方法で進めています。調査区内における地盤の高さはほぼ一定ながら、遺構や遺物の分布は県道を挟んだ6区と7区に多く認められます。

## 検出遺構

見つかった遺構には、住まいや倉庫であった竪穴住居跡や掘立柱建物跡、廃棄物用の穴と考えられる大小の土坑、区画や排水に使われた溝跡などがあります。また、羽黒川の支流であったと思われる河川跡が複数見つかかり、住居跡などの遺構はこれら河川間の比較的安定した場所に築かれています。

竪穴住居跡は20棟余確認され、一定の区域に重複し

たものが多い状況から、集落の変遷過程を探ることができそうです。大きさは一辺が3～5m程の方形で、カマドは風の影響を考慮してすべて南面に備えられています。

掘立柱建物跡は、規模の大きな柱穴からなる大型の3棟が見つかりました。これらは東西二間×南北三間の配列で、柱間の距離は九尺（2.7m）を測ります。柱穴は径・深さとも約1mの大きさで、太さ30cm程の柱根が残っているものが何本もありました。

土坑は形状や規模に様々なものがありますが、そのいくつかは周壁が赤く焼けたものや、中に多量の灰や炭が堆積したものでした。このことから、集落内で鍛冶生産が行われたことも想定されます。

## 出土遺物

遺物は奈良・平安時代の土師器（はじき）・須恵器（すえき）・黒色土器などが、主に河川跡や住居跡から多く出土しており、これまでに整理箱70箱分の遺物が出土しています。

土器はほとんどが破片ですが、復元して完形になるものもあり、煮炊き用の土師器の甕（かめ）、貯蔵用

の須恵器の甕・壺（つぼ）、食器である須恵器や黒色土器の坏（つき）などが認められます。坏には、底部が大きく器の高さが低い形状の奈良時代のものと、小さな底部で器高が増す平安時代のものまで、その形態の違いからおよそ一世紀の時期幅があるものと考えられます。

古墳時代の遺物は少ないながら、一部の住居跡や包含層から土師器の高坏や甕が出土しています。これらは奈良時代よりも300年程古い、古墳時代中期のものとして推測されます。

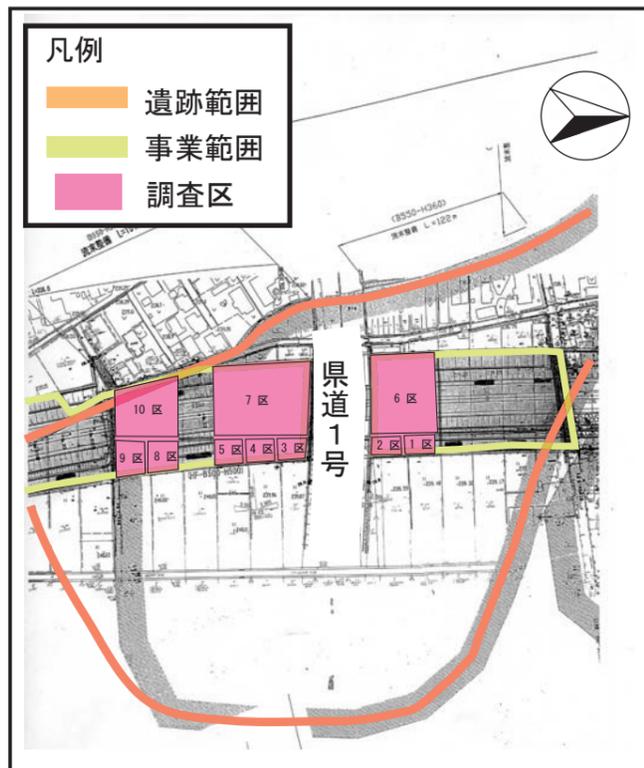
## まとめ

馳上遺跡は、羽黒川右岸の後背湿地上に営まれた古墳時代と奈良・平安時代の集落跡です。第1次調査の内容も加えて、これまでの調査成果をまとめると以下のようになります。

発見された遺構は、古墳時代中頃の竪穴住居跡、奈良・平安時代の竪穴住居跡と掘立柱建物跡、土坑、溝跡などです。調査区における遺構の分布状況から、集落跡の中心部は遺跡範囲の西側で、第1次調査時の県道部分とその南北に隣接する6区・7区であることが分かりました。

出土した遺物は奈良・平安時代の土器が主体で、その多くが河川跡から出土しています。第1次調査時には河川跡から農耕具等の木製品や、お祓（はら）いに使用した木簡なども見つかりました。河川は流路を幾度か変えながら北流しますが、集落もその変化に応じて中心を移したことが窺われます。また、河川沿いに検出された大型の建物跡は当時の倉庫と思われ、船運を利用した物資の集積場所であった可能性が想定されます。

今回の発掘調査により、この地が古来より住みよい土地であったことがうかがわれます。

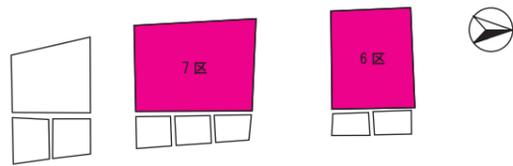


馳上遺跡第2次調査計画図（1：5,000）



調査の様子（第7調査区 北より）

馳上遺跡（はせがみいせき）第2次調査  
第6・第7調査区遺構配置図



- 凡例
- 河川跡
  - 竪穴住居跡
  - 土坑
  - 柱穴



河川跡 遺物出土状況（北西より）



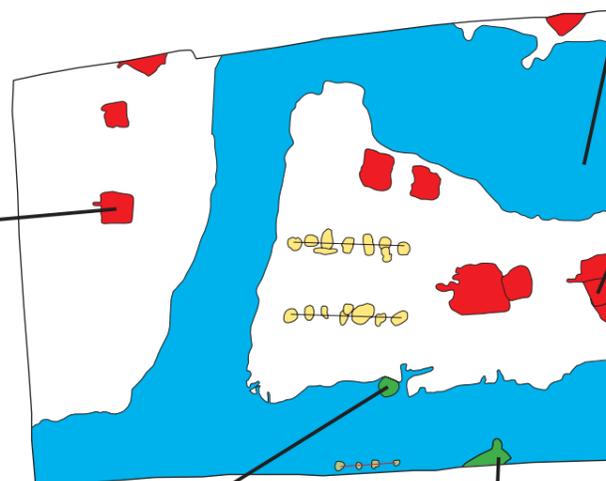
竪穴住居跡 遺物出土状況（東より）



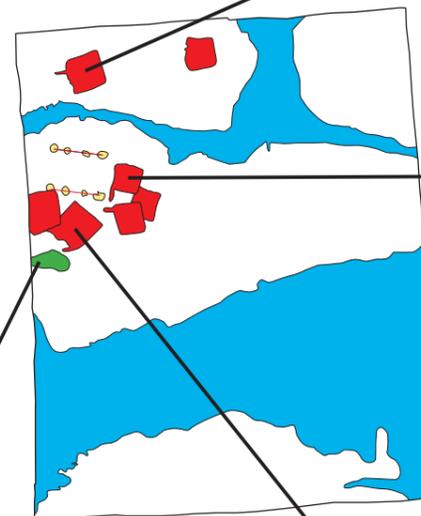
竪穴住居跡（北より）



竪穴住居跡（北より）



0 20m



竪穴住居跡（北より）



土坑 遺物出土状況（西より）



土坑 遺物出土状況（南西より）



土坑 遺物出土状況（南より）



竪穴住居跡内 炉跡 遺物出土状況（東より）